

上京

史蹟と文化



美を創る



幸流小鼓方

曾和博朗

上京区笹屋町通大宮西入榎屋町

能楽の幸流小鼓方、人間国宝・曾和博朗さんは小鼓方の長老として八十年の芸歴を持ち、今年四月二十七日に米寿をお迎えになりました。当日は、それを記念して、お孫さんの尚靖さんプロデュースのお祝いの会「おじいちゃん 曾和博朗お誕生日会」が金剛能楽堂で開かれました。博朗さんの小鼓に対する思いについて、同席していただいたお孫さんの尚靖さんとともにお話を伺いました。

博朗さんのお祖父さんは、千本一条で代々味噌醤油問屋を商うお店の旦那さんでしたが、小鼓に秀でた技を持ち、プロになった方です。鼓方は数え年の六歳六月六日に小鼓を始め、同じく九歳に初舞台を踏みますが、舞台度胸をつけるために本当はもつと早くから小鼓に触ってお稽古されているのだそうです。博朗さんが十六歳のとき、大きな波に立ち向かうことになりました。師匠であるお祖父さんとお父さんを次々と亡くされたのです。さらに第二次世界大戦が始まり、博朗さんも徴兵されました。

「仕事は音楽関係やて言ったら通信兵にされました。信号の符



号は八十種類ある。しかし小鼓の音の符号は二百もあるけど覚えてる。小鼓は覚えなできませんしな。そやし信号はすぐに覚えましてわ。友達同士の会話もツートンツートンてやりました。」

博朗さんの記憶力のすごさを表すエピソードですが、戦争があつたことで、三年近くも小鼓から離れなければなりませんでした。

『ふるい』にかげられましたんやけど、なんとか難関をくぐりぬけました。しかし、この戦争で能楽の世界の古い人たちがたくさん亡くなりました。」

「ほな、ちよつと小鼓触つてもらおか。」

出していたいたのは胸が元禄時代の小鼓。そんなに古くても、小鼓というのは博朗さんや尚靖さんのような名手が打てば傷むことなく使い続けることができるのだそうです。小鼓は結構重いものですが、これを博朗さんは二時間ぐらい持ち続けて演奏されるといえますから、米寿の今も大変なエネルギーを持っておられることがよくわかります。皮は馬の皮、しかも仔馬の皮がよいそうです。皮に多少湿りがないといい音がしないといえます。

驚いたのは、天気予報がいらぬい、とおつしやつたこと。湿度に対する感覚がここまで研ぎ澄まされている。昔の人たちなら、当然持ち合わせていただろうけれど、現代人にはまずあり得ない感覚。私たちはただただ驚嘆するばかりでした。

打つときは左手で持ち、右の肩に乗せ右手で打ちます。打ち方は、下から上に、重力に反して打つ感じになります。打つ人間から打撃面が見えないのは小鼓だけで、それが他の打楽器とは違つ

特徴となつていきます。音は五種類あり、持っている紐の締め具合を手で調節して音を変えていきます。「着物を着こなすように鼓も使いこなさんとね。」小鼓は、曲によつて握りを変えていく。気候や季節にも合わせて、違つものを使うということでした。

博朗さんは小鼓を持つてお話されている途中、突然「ポンポン」と打ち鳴らされました。その音を聞いた途端、胸が高鳴るような、なんとも言えない高揚感に包まれました。

さらに掛け声がかかります。囃子方は、小鼓だけではなく、笛・大鼓・太鼓の四種類で成り立っています。

「お囃子は指揮者がいませんの。監督もいません。」

その中で掛け声は調子を合わせる重要な役目を果たしています。つまり「息」で合わせる、今で言う「セッション」だとい



お孫さんの尚靖さん(左)とともに

うことです。小鼓の音に驚き、掛け声に、ため息をつく。それらを目の前で聴ける幸せをかみしめたひとときでした。

お話をきくうち、厳しいお稽古を積み重ねる小鼓方の家に生まれ、小鼓がいやになってしまつようなことはなかったのか、とふと思いました。博朗さんの表現は控えめですが、「小鼓の魅力は？」と尋ねると、「小鼓のすべてが魅力」「小鼓が好きなの」と言い切られるその強さ、本当に楽しそうにお話してくださる、まるでお能の世界そのものようなそのお姿に、小鼓と共に生きていくことに何の迷いもなかったらうと確信しました。

お稽古のお話で印象的だったのは、「新しい発見」ではなく、「古いものの発掘」ということ。尚靖さんは「自分のおじいちゃんから聞いたことを教えてもらい、それをまた自分がおじいちゃんになったときに思い出して伝えていく。だから『発掘』ですね。」と語ります。

博朗さんは最近新曲を披ひかれたそうですが、「古い曲のええところを持ってきたりしてね。」やはり発掘でした。そうやって、代々の技と心が受け継がれてきたのです。そしてこれからも今までのとおり、博朗さんから受け取ったものを尚靖さんが次の代に渡していけるのでしょうか。



本記事は四月二十二日「上京ふれあいネットカミング」(市民レポーター…鳴橋 明美)に掲載したものを編集したものです。

元祖

畑かど

京・上御霊前烏丸西
☎〇七五・四四一・〇六〇代

ぼたん鍋と京料理

香木・薬香・薬種 輸入製造

山田松香木店

〒802-8014
京都府上京区勸修山小路町1-64 (御所西)

TEL 075-441-4094
FAX 075-431-2879



府立医大病院

白梅園子の南、広小路あたりまでの両側には京都府立医科大学とその附属病院が広大な敷地を占めています。近年、すべてが増改築され、映画「愛染かつら」のロケ地で知られた鴨川沿いの病棟も姿を消しました。バスの窓から見える真白な高層建築の中に、焦茶色の壁体をもつネオ・ゴシック建築が見えます。これが唯一残る昭和四年竣工の旧図書館なのです。平

と記録されています。鉄筋コンクリート造三階、地下一階建て、垂直線を強調したアーチなどゴシック意匠にモダンデザイン要素を採り入れた質の高い建物とされており、内部もよく保存されて昭和初期の階段講義室がほぼ当初のまま現存しているなど、希少な価値を有しています。



府立医大

成二十二年に京都府の有形文化財の指定を受けた府立医大の歴史を伝える遺構です。京都府の建築技師であった十河安雄が主任として設計を担当し、工費は一四万九〇〇円

その前には明治十三年の「療病院碑」があり、その由来が記されています。府立医大の最初は、明治五年に粟田口の青蓮院内で開設された仮療病院が、明治十二年に附設した医科予備学校を前身とします。日光門跡(輪王寺宮) 里坊の跡地



Malebranche
MALEBRANCHE
京都 北山

洋菓子

マルブランシュ 北山本店

〒603-8053 京都市北区北山通植物園北門前
TEL(075)722-3399・FAX(075)702-9440
9:00AM~9:00PM 年中無休(喫茶10:00AM~8:30PM)
<http://www.malebranche.co.jp/>

に擬洋風の木造建築群が明治十三年に竣工移転し、京都府医学校となりました。同三十六年には京都府立医学専門学校と改称し、療病院は附属病院となりますが、それを機に病院棟の改築をくりかえし、大正十年には大学令によって京都府立医科大学が設立されました。その後も設備の増強の中で附属図書館が建設されたのです。

また河原町通西側の学舎の間には史跡に指定された御土居の一部が保存されています。

荒神口から丸太町まで

寺町通と河原町通との間には宝永五年（一七〇八）の大火で焼失した寺を川東へ移転させたあとに新烏丸通（荒神口〜二条間）、新樫木町通（丸太町〜二条間）が開通し、寺町通に面した公家屋敷の背後に幕府の役方の住居が建てられました。近年まで与力屋敷と呼ばれる家が残っていました。寺町

（河原町間には東西に多くの短い切通しが設けられ、今なお迷路のようになっています。

河原町通は大正末期から西側を大きく拡張したため、今なお西側の家は奥行がなく、河原町の路上のほとんどは宅地であったのです。中には袋塚子といわ

れた行き止まりであった路地が削られて通り抜けになったというようなところもできました。このあたりには、かつて文化勲章受賞の陶芸家の富本憲吉、日本画家の西村五雲らがアトリエを構え、大藏流狂言方の故四世茂山千作師など多くの文化人が住まわれたところでした。

河原町丸太町という地名は観光客には不思議がられますが、両方の道路の拡張によって大きな交差点となったものであ

り、元春日小学校の南側に残る細い道路が、拡張以前の丸太町通の名残りなのです。

今、元春日校の跡地に御所南小学校の分校舎が建てられる計画があり、完成すれば角地も一変することと思います。（出雲路敬直）



河原町丸太町

上質で新しい 京都ブライトンホテル



きらめくおもてなしを
あなただけのとっておきの時間で
京都ブライトンホテルで
こころゆくまでお過ごしください

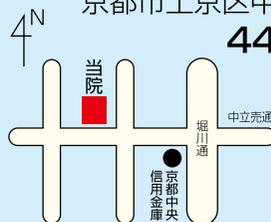
 京都ブライトンホテル

〒602-8071 京都市上京区新町通中立売（御所西）
TEL.075-441-4411(代) FAX.075-431-2360
<http://www.brightonhotels.jp/kyoto/>

耳鼻咽喉科 鈴木医院

京都市上京区中立売通堀川西入
441-0675

診察時間 午前9時～12時
午後4時半～7時半



	月	火	水	木	金	土	日
午前	○	○	○	×	○	○	×
午後	○	○	○	×	○	×	×

祝休診

冷泉家と御所 (其の四)



公益財団法人冷泉家時雨亭文庫

常務理事 冷泉貴実子

下鴨（神社）入口にて西南を見るに、何方にも候や（どこだろうか）。竈の下を焚く火の如くなり、夢なり、夢なり。

鴨鳥居内にて、暫く御輿を下す。その時、三条中納言劍（三種の神器の）を持ち来たられ、橋中將袍（装束の一種）にたすきを掛ければ、面色（顔色）土の如くにて、左の脇に璽（三種神器の）を持ち馳せ来られ、早々御輿に入れる。

この間、親王、丞相並びに□□下より進み御追付き申さる。所司代脇坂淡路守、陣笠火事羽織、早馬にて来る。

それより鴨御社の前、西の方、殿扉を開き、御輿を入れ奉る。途中に於て、雑人拍手を打ち、平伏して拝す。

あとより御車引き来たる。拜殿には内侍所（三種の神器の一つの八咫の鏡）を置き泊め奉る。御つきの面々を始め女房等相守る（内侍所が置かれたので、皆がこれを守る態勢となった）。

新待賢門院（孝明天皇の生母）、和宮、祐宮（後の明治天皇、この時

嘉永七年（一八五四）四月六日、御所から出火した火事は大きくなり、孝明天皇は御輿に乗って立ち退かれる。

冷泉為理は、出火と共に御所に馳せ参じ、帝に供奉する。その様子を為理が書きのこした日記から見てゆく（前号の続き）。

和宮（孝明天皇の妹、後に將軍

家茂と結婚した人）この頃御参内中、同御立ち退き（たまたま御所にいたので、同様に避難した）。この時、御台所、御内儀、一度に焼亡す。かねて御文庫（避難所として使

われた、本を入れた蔵）に居り奉る御留主（主人が他出の間、とどまつて、家や後の事を預り守ること）等、なかなかその間これ無し。命を助け候事、はなはだ大き成る事なり（命を守るだけで精一杯）。

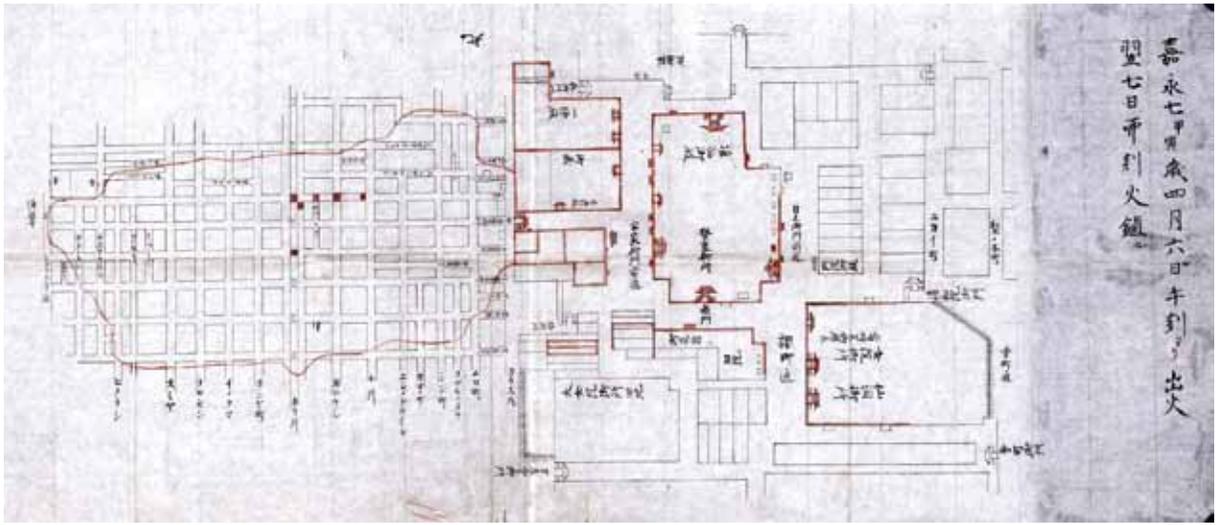
もつとも各土足。火急字のごとく。とても兼ねての御立ち退きの次第、出来がたし（訓練のようにはいかない）。

御台所御門より御立ち退き。供奉の面々、火急の事故、少しく遅れて参内の人々は、唐門より入らんと欲し候所（唐門より入ろうとしたが）、火移り、御台所門より参内

の人もこれ有り。また道中より引き返し候人もこれ有り。色々なり（当時の人々にとって、どの門から参内するかは重大問題であった）。

御道筋（御輿の避難順路）、朔平門の前、石薬師通、寺町傘屋町、升形を北河原、それより御順路下鴨へ御立ち退き也。附武家、御供の馬、町の先々手桶に水を出す所に、供奉の面々これを呑む。

余（為理が自分のことを示して言っている）石薬師通濱屋六兵衛と申す荒物屋へ入り、草履を乞ふ。脚土足の痛を免れる（この場合、土足は裸足）。



嘉永大火火災図（京都市歴史資料館蔵）

二歳）、女房御下、各御集る。敏宮（和宮の姉）は別所へ御立ち退きの噂これ有り。御ほうれん（鳳輦、天皇の乗り物）行方知れず。焼亡か。惜しむ可し。恐るる可し。

主上（天皇）仰せの由。殿下（関白、鷹司政通）は未だ来たらずかとの御意。余、鴨新通を行くに、向うより御歩行で御出で。御待ちかねの旨を申す。直ちに御前に御出で。

各水を呑む。社中より出しし握飯、水にて食す。冠巻（冠の後につける巻）を巻く。有合せのこより又箸也（櫻を巻いてとめる物は、有合せのこよりや箸である）。

此間、前番当番（日直の前番と当番）を残し、あとは便宜の（適宜）所に於いて休息の旨、沙汰有り。余は前番により詰め居る。女房打交るなり。小番（日直）御免の綾小路前中納言は、別荘畑牧に居られ、衣冠の用意これ無し。鴨社中にて家の衣冠を借りられ着用して

参らる。実に各非常也。いささか気、まず打付く（ほつとする）。

上（帝）も御別条無く御立ち退き。この所に於いて家内の文庫書物並びに家司の面々、滞り無く立ち退きの事を案じ、心中に観世音を祈り居る。

火は如何と見るに、煙盛んに立ち昇り、中天は煙、日の影黄色。中々鎮火とは思ひがたし。とても私宅免れ難し。

内裏焼亡の位、天変致し方無き時節。この上は家業の品々、文庫障り無く、家内の物、無事立ち退きのことばかりを思ひ、家は思ひ切り、何れへ立ち退き候や。聞くまでは心元無し。召し連れ参内の節の家来、如何成り候事や知らず。不安心の所へ一人顔を見る。所謂地獄にて仏に会ふ警なり。

新・古茶道美術品

清昌堂
やました

京都店・京都市上京区小川通寺ノ内上ル

〒602-0061 TEL (075) 431-1366

FAX (075) 431-1370

東京店・東京都新宿区市谷甲良町1-8

〒162-0856 TEL (03) 5261-4566

FAX (03) 3235-5677

柔道圓心道場

〒602-0014
京都市上京区室町通寺之内上ル下柳原北半町 210
TEL (075) 441-1968 / FAX (075) 441-2972

山崎接骨院

〒602-0898
京都市上京区烏丸通寺之内西入上ル相国寺西門前町 647
TEL (075) 451-6050 / FAX (075) 451-6051

<http://www.enshin.sakura.ne.jp/>

上京の昔ばなし

第五話

岩神祠

「西陣の聖天」さんで有名な雨宝院から西へ少し行けば、北側の民家の路地裏に、大きな岩石を祭った祠がある。岩体には太い注連縄がかけられ、いかにもいわく

ありげな偉容である。これを昔から岩神様とあがめ信仰されてきた。古い言い伝えでは、今から三百年程前、堀川二条の辺に、この石は巨体を横たえていた。或る時、



岩神祠

後水尾天皇の御生母中和門院のお目にとまり、その見事な岩石は、大掛りな作業で御所に運ばれた。御苑の池の汀に据えられ、一人の景色を添えたが、其の後不思議な怪異がしばしば続いた。夜中見回りの宿直の人達が、池の畔で物の怪に出合ったとの噂などが広がり、皆気味悪く恐れさせた。その妖怪こそ、石の精の災いと言いふらされ、気の弱い御所の女官達を震えあがらせた。そこで御所では、常に加持祈禱などでしばしば御所に参る、真言宗の蓮乗院の僧を召し出し、この怪石の始末を命ぜられた。かくして石は御所から運び出され、現在の場所に安置されたのである。その後、石の怪異は全くなくなり、誰言うともなく岩神様と唱えられた。

しかもこの石に祈願すれば、乳の出の悪い産婦も忽ち靈験あらた

しみじみと心のかよう 贈りもの

<http://www.toraya-group.co.jp/>

蔵 くらや

¥2,500*で食べ放題+¥480で飲み放題!!
(※月~木料金)
ブランディアのディナーbuffet
 "PRANDIA" DINNER BUFFET

人気のローストビーフのカットを含む約30種類のお料理が食べ放題
 で月~木¥2,500、金~日¥2,700さらに4種類のアルコール飲み放題が+
 ¥480。ぜひお気軽にご利用ください!!

毎日 17:30~21:00 (90分制:17:30~18:00~/19:30~)

食べ放題 【月~木】¥2,500 【金~日】¥2,700
& 飲み放題 ¥480

※料金はすべて税金・サービス料を含んでおります
 ※ご予約優先

ご予約・お問合せ: レストラン"ブランディア" Tel.075-223-8973 (直通)

地下鉄京都市役所前駅から徒歩で約1分

京都ロイヤルホテル & スパ

かに、乳を授かるとの評判が高まり多くの婦人の信仰をあつめることとなった。そこで寺が建立され、名も有乳山岩神寺と称した。これが岩神寺草創の縁起物語である。江戸の中期、元禄頃の京の古地図には岩神寺は立派に存在し、西陣の名刹であった。その後享保十五年有名な西陣焼けに類焼し、寺は悉く烏有に帰したが間もなく再建された。その後天明の京都

大火では再び類焼し、小堂が一種残ったが、再建不能のまま明治維新の激動期に遂に廃寺となった。明治の頃この前に石上座の劇場があり、寺に代って西陣の繁華街となったが大正頃いつしか消え去った。岩神様も民家の奥にかくれ、西陣の人達からも全く忘れられていたが、近年になって周囲の建物が取り払われて広くなり、今も昔の峻厳な表情は少しも変わらない。

第六話 北辺亭と応天門事件

西洞院中立売下る所を菊屋町という。菊屋町の西側に北辺亭があったと古書に載っている。今昔物語には「北辺の左大臣」という人、一条の北辺に住んでいたの唯言うことなく「北辺の大臣」と呼んでいた。名を信といひ万事しあわせに平穩に過ごされていたと記されている。それは左大臣源信のことであつて嵯峨天皇の皇子とし

て生れ、弘仁五年、源の姓を賜り臣籍に下つた人である。温雅な貴公子として育ち、長じて参議となり左近衛中将を経て、天安元年には左大臣となった。時に四十六歳であつた。北辺亭は一町四方に塀をめぐらし幽邃な苑池をもつ閑雅なたたずまいだったに相違ない。ところが貞観八年三月十日の夜、大内裏八

省院の正門である応天門が炎上するという事件が起つた。火は忽ち大門を舐め尽し、左右の廻廊にある楼閣にも延焼した。事件は清和天皇の御代の出来事で、当時の朝野に大きなショックを与えた。此の原因不明の火災は種々憶測され、迷信思想の盛んな当時では不吉の前兆でないかと噂された。

間もなく応天門の炎上は左大臣源信の放火であると伴大納言が朝廷に訴えた。朝廷では事の重大に仰天し直ちに左大臣を罪せんと厳しく謹慎が命ぜられた。晴天の霹靂というのか、北辺亭は忽ち女共が大声で泣き騒ぎ、大臣は無実の罪を嘆き悲しみ、庭上に荒菰を敷き天道の神に訴えるという愁嘆場となった。これを聞いた太政大臣藤原良房は直ちに宮中に馳せ参じ、軽率に人を処罰する危険を天皇に進言して諫めた。源信は危ぶく罪を許された。数ヶ月して意外な事から応天門火災の真相が判明した。それは源信を放火の犯人に

仕立てた伴大納言が放火の真犯人だった事である。政治上の野心の強い伴大納言は名門出の源信の地位を妬み失脚させるための計画だったのである。その結果は伴大納言は放火の罪で連累と共に配流された。今から凡そ千百年もの昔話であるが「北辺亭」も今は幻の屋敷である。



歴史文字シリーズ

伝達浪漫

紀元前3000年頃。パンのシンボルが描かれ、食料配給の割り当てが記録されている。

和光印刷株式会社

〒602-0012 京都・烏丸通上御堂前上ル TEL.075-441-5408代

E-mail:info@wako-print.co.jp

第七話 一条棧敷屋に出た鬼

平安朝の頃から賀茂の葵祭は観るまつりであった。葵祭は御所から賀茂の社へ勅使を参向させる行列で、これを路頭の儀といい華やかな貴族のパレードだった。そのため晴れの供奉に参加の出来た貴族の子弟たちは、身には綾羅錦繡の装束を着用して美を競い、沿道の見物客に誇らしい晴れ姿を見せて行進した。

其頃の一条大路は道幅も広く約三十余米もあつたので牛車も人も道端で見物した。貴族の中には祭見物用の急造の棧敷を造り客達を招いた事もあつた。寛元四年（一二四六）一条室町には豪華な院の祭見物用の棧敷屋が出来、葵祭には撰閨家の女房達が華やかに座敷を埋め、笑いさざめいて賑やかに祭り見物をした。慎み深い宮廷生活で年に一度の楽しい一日

だったに違いない。祭がすむとその棧敷屋は静寂の中に取り残され、無人の空き家となつた。

秋風の吹く淋しい或る夜の事である。この空き家となつている棧敷屋に二人の男女が入り込んで何事かヒソヒソ話をしていた。夜の明ける頃には二人の姿は消えて森閑となった。それから数日たつて又男女が現れ棧敷屋の中に消えたが朝には誰もいなかった。こんな或る日のこと、男女の二人が棧敷屋の中で抱き合っていると、外の通りで何者か大きな叫び声が聞えた。その夜は雨降りでも風も強く薄気味悪い夜だった。ほえる様な声が再び棧敷屋の前で聞えた。男は恐れてすぎる女を離し何者だろうと藪戸を少し押開いて窺った。雨中に身の丈軒の高さもある様な異形の妖怪が爛々とした眼を光らせ

口を大きく開いてつつ立っているのが見えた。余りの恐ろしさに男は尻もちをつき、生きた心地もなく女を捨てて一目散に逃げ去つた。一条棧敷屋には鬼が出るという噂は、間もなく都のあちこちに広がり夜は誰も近寄らなくなつた。それから後、一条棧敷屋には、再び男女の出入はなかつた。

一条大路の南の町筋は正親町小路（今の中立売通）で、その西南

第八話 牛若丸の首途

平家物語「剣の巻」には義経の奥州下りが書かれてある。承安四年（一一七四）鞍馬山にいた常盤の子牛若丸は舍那王と呼ばれ鞍馬の寺僧、東光坊阿闍梨、覚圓坊阿闍梨等について学問に励んでいたが、この年の春鞍馬の山に花の咲きそめた頃、牛若は突如鞍馬から姿をくらました。時に牛若は十六歳の若冠、彼を囲む源家の残党の

の横町には仕丁（雑役夫）達の雑居する小屋があつた。この束ねをする頭は大男の偉丈夫だった。鬼が出没する噂話は尾緒がついて仕丁達の間では怪談話となつた。この話を面白そうに聞いている頭は、ただ薄笑いを浮かべて頷くだけだった。どうやら男女の密会を封じるため鬼の演出をしたのはこの男のようだった。





一団が天狗にも似た怪しい風態で一陣の突風のような迅さで山から連れ去った。これは奥州の富商橋次末春という金商人の計画だった。橋次は平家打討のため牛若丸を奥州の將軍藤原秀衡のもとに導くためであった。奥州平泉の藤原氏は毎年朝廷や摂関家におびたらしい砂金を貢物として贈っていた。奥州一の財閥であり大勢力圏の持主だった。平泉の藤原氏の権力は奥州に産出する砂金にもとづくもので、この砂金を京へ運ぶ金

商人が橋次である。橋次は藤原秀衡の信任も厚く、衣川の居宅には百人に余る召使を抱える程の富商だった。

智恵光院今出川上ル桜井町には首途八幡宮がある。社殿は一きわ高く盛り上った築山の上に鎮座している。祭神は応神天皇を祀るといふが、この地は昔平安大内裏の北辺にあたり、金商人橋次の居宅のあった所と伝えられている。恐らく奥州砂金を京の高級物資との取り引き拠点とした所に違いな



い。邸内に八幡宮を祀り、橋次は朝夕拝礼して安泰を祈った。牛若が鞍馬の山を脱走するとひとまずここに身をひそめ旅支度の後、八幡宮に武運長久を祈って、奥州に向け首途したのである。後年おごる平家も久しからず牛若丸が成人して源義経となり、平家追討の総大将となって平家を西海に潰滅するのである。この八幡宮は牛若丸の奥州首途に因みいつしか首途八幡宮と称され、昔より開運の神として崇められている。

永年の信用
まごころのご奉仕

葬祭センター

公益社

本社／京都市中京区烏丸通三条下ル ☎(075)221-4000
フリーダイヤル ☎0120-00-4200 <http://www.koekisha-kyoto.com>

◆ 葬儀式場 ◆

- 北プライトホール (堀川柴明) 京都市北区柴明通堀川東入ル ☎(075)414-0420
- 中央プライトホール (五条大和路) 京都市東山区五条通大和路 ☎(075)551-5555
- 南プライトホール (堀川八条) 京都市南区堀川通八条下ル ☎(075)662-0042
- 西プライトホール (五条西大路) 京都市右京区五条通西大路西入ル ☎(075)322-0042
- 山科プライトホール (五条外環) 京都市山科区五条通外環伏線東入ル ☎(075)595-0042
- 烏丸プライトホール (因幡薬師) 京都市下京区烏丸高辻南入東入 ☎(075)351-7724
- 宇治プライトホール (宇治横島) 宇治市横島町(京都文教大学前) ☎(0774)20-0042
- 滋賀プライトホール (大津) 大津市朝日が丘1丁目 ☎(077)523-0042

上京茶会



春の「上京茶会」が、6月9日、大本山妙顯寺を会場に、表千家による懸釜で開催されました。「光琳曲水の庭」を眺める本席と、「四海唱導の庭」を眺め立礼にいただく副席の二席でお茶を味わい、ときおり初夏の心地よい風が流れる中、贅沢なひとときを過ごしていただきました。

上京区民ふれあい文化大学

～日本の香りにふれる～

様々な文化に親しんでいただく機会として開催している「上京区民ふれあい文化大学」が2月16日に、ホテルルピノ京都堀川で行われました。

今回は、株式会社山田松香木店専務取締役の山田洋平氏をお招きし、「香」を身近に楽しむための方法についてお話をしていただきました。

参加者は実際に香りを楽しむ「間香」を体験し、心やすらぐひとときを過ごしました。





上京区憲法月間

「映画のつどい」

五月の憲法月間にあわせ、五月三十日、同志社大学寒梅館において映画「わが母の記」が上映されました。今回も、日本語字幕と音声ガイドによる場面ごとの説明がついた「ユニバーサル上映」を行い、視覚や聴覚に障害のある方や高齢の方も含め、みなさんがともに映画を楽しむことができました。会場には一部・二部あわせて千四百名を超える多くの方が来場され、家族の絆の大切さを感じ、感動に包まれた上映となりました。

「ガーデンプランター講習会」

季節の草花をプランターに寄せ植えする「ガーデンプランター講習会」が3月16日に上京区役所において開催されました。



講師にNPO法人フラワーアーティスト育成協会名誉理事の辻井康雄氏をお招きし、参加者は思い思いにイメージした作品を、和気あいあいと楽しみながら仕上げました。

園芸を通じて、楽しく自然や環境について考える絶好の機会となりました。



「みんなで花を咲かそう」活動



ボランティアの皆さんが、熱心に手入れを続ける花々が6月の一斉植替え作業を経て、なお一層美しく、区役所入口を飾っています。

区役所を訪れる人々に憩いと安らぎを与える場となるように、また、講習会等を通じ、まちの美化や環境問題などについても考える機会を広げていければと、日々取り組んでいます。



宴会・婚礼・会議
宿泊・レストラン

あじわい

¥5,000(税サ込)

ホテル

ルビノ京都堀川

〒602-8056 京都市上京区東堀川通下長者町
TEL 075-432-6161(代) FAX 075-432-6160
<http://www.rubino.gr.jp/>



レストラン

11:30~14:00

毎週日曜日はお得な
ランチバイキングを
しております

おひとり

¥1,500(税込)

「上京・史蹟と文化」は上京区役所地域力推進室まちづくり推進担当で販売致しております。(TEL 441-5040)
また、上京区役所のホームページで御覧いただけます。

<http://www.hanakobo.co.jp>

フリーダイヤル 0120-46-8700



大切な方への御供えのお花、お誕生日、御祝のお花、
結婚式のブーケなど心に残る記念日を
お花で彩るお手伝いをさせていただきます。

花工房 京都本店 京都市上京区丸鳥通今出川下ル
TEL 075-414-8700 FAX 075-414-7787



- 神学部
- 文学部
- 社会学部
- 法学部
- 経済学部
- 商学部
- 政策学部
- 文化情報学部
- 理工学部
- 生命医科学部
- スポーツ健康科学部
- 心理学部
- グローバル・コミュニケーション学部
- グローバル地域文化学部



Doshisha University
同志社大学
<http://www.doshisha.ac.jp/>

お問合せ先 同志社大学 企画部 広報室 広報課 TEL:(075)251-3120

酢一筋の商い、伝統の滋味。

伝統から未来へ
京・西陣 孝太郎の酢
(有) 林孝太郎造酢

京都市上京区新町寺ノ内上ル東入道正町455
TEL (075) 451-2071
FAX (075) 451-8028



創立以来八十年に
わたって、
和やかな家庭的な
雰囲気にもまれつつ
就学前教育の
本流をめざして、
保育を続けて
参りました。
幼児たちは
楽しい遊びを通して、
人生に必要な生きる
力のすべてを手に入れます。

学校法人 **北野幼稚園**

京都市上京区御前通一条下る (北野天満宮バス停下車南100m)
TEL.463-0111(代)
http://homepage3.nifty.com/kyotokitano_k/



名物ゆどうふ
南禅寺 JUNSEI

左京区南禅寺門前 電話 075-761-2311
<http://www.to-fu.co.jp>

地域の皆さまに親しまれる病院であり続けるために

洛和会丸太町病院 **新築移転**

2014年1月1日



完成イメージ

救急・医療の体制強化、最新の検査機器を整備



子どもたちのために、未来へ...

洛和会ヘルスケアシステム®
洛和会丸太町病院

TEL 075 (801) 0351 (代)

予約 ☎0120 (489) 244

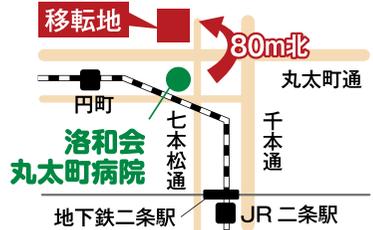


広々とした空間

～明るい日差しに包まれて～



完成イメージ



ミサワホームイング

リフォームをお考えの方に

ミサワホームの設計基準に基づき、建物の安全性や耐久性を損なうことなく
性能・機能・デザインをグレードアップします。

ご希望のカタログをお電話でお申込ください。

複数選択可



1

住まいのメンテナンス編



2

屋根・外壁リフォーム



3

水廻りリフォーム



4

ECOリフォーム



5

高齢者対応 (ユニバーサルデザイン)



6

外構・造園リフォーム



7

ホームイング実例集



8

ミサワホーム総合カタログ



住いを建てる生涯のおつきあひ

ミサワホームイング近畿

京都営業部

■お申込はこちら

0120-330-351

火・水曜日 定休 受付時間 AM10:00～PM6:30